

COMPANY RESEARCH AND ANALYSIS REPORT

|| 企業調査レポート ||

フリービット

3843 東証プライム市場

[企業情報はこちら >>>](#)

2024年4月8日(月)

執筆：客員アナリスト

宮田仁光

FISCO Ltd. Analyst **Kimiteru Miyata**



FISCO Ltd.

<https://www.fisco.co.jp>

業績動向

2024年4月期第3四半期も高い利益成長を継続

1. 2024年4月期第3四半期の業績動向

フリービット<3843>の2024年4月期第3四半期の業績は、売上高39,992百万円（前年同期比16.9%増）、営業利益4,670百万円（同47.4%増）、経常利益4,592百万円（同54.9%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益2,868百万円（同73.2%増）となった。ただし当第3四半期の業績には、連結子会社で集合住宅向けインターネットサービスを主力とするギガプライズ<3830>及びその子会社のギガプライズグループ（以下、GPG）の決算日が3月31日から4月30日に変更されたことに伴い、GPGの2024年4月期第1四半期が4月～7月の4ヶ月変則決算として取り込まれている。この影響額を除いた2024年4月期第3四半期の業績は、売上高が38,260百万円（前年同期比11.8%増）、営業利益が4,272百万円（同34.9%増）、経常利益が4,196百万円（同41.6%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益が2,711百万円（同63.7%増）となり、実質ベースでも売上高・各利益ともに大きく伸びた。なお、同社はGPGの変則決算を理由に、決算短信に前年同期比増減率を記載していない。

2024年4月期第3四半期業績

（単位：百万円）

	23/4期3Q		24/4期3Q			24/4期3Q（実質ベース※）	
	実績	売上比	実績	売上比	増減率	実績	増減率
売上高	34,216	100.0%	39,992	100.0%	16.9%	38,260	11.8%
売上総利益	10,002	29.2%	11,654	29.1%	16.5%	-	-
販管費	6,834	20.0%	6,984	17.5%	2.2%	-	-
営業利益	3,167	9.3%	4,670	11.7%	47.4%	4,272	34.9%
経常利益	2,964	8.7%	4,592	11.5%	54.9%	4,196	41.6%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	1,656	4.8%	2,868	7.2%	73.2%	2,711	63.7%

※ GPGの2023年4月単月業績を除いた実質ベース
 出所：決算短信、決算説明資料よりフィスコ作成

同社は2024年4月期を最終年度とする3ヶ年中期経営計画『SiLK VISION 2024』を着実に実行する一方、2024年4月期を次期中期経営計画『SiLK VISION 2027』に向けた2回目の「Transformation Term」と位置付け、5Gやweb3などの急速な技術革新に対応するためにポートフォリオの最適化に向け、組織戦略、人事戦略、事業戦略などの再点検を実施した。この結果、5G生活様式支援事業ではGPGの集合住宅向けインターネットサービス、企業・クリエイター5G DX支援事業では（株）フルスピードの主力事業であるアフィリエイトサービスが好調に推移し、5Gインフラ支援事業も堅調だったことから、売上高は2ケタ増収となった。こうした増収効果に加え、同社事業の多くが継続課金収入で固定費が肥大化しにくい事業で占めていること、スマートフォンサービス「トーンモバイル」のマーケティングコストが一巡し戦略投資の伸びが落ち着いてきたことなどから、販管費の伸びが低位に留まり、営業利益は大幅な増益となった。

5G 生活様式支援事業をはじめ 3 事業すべてが増益

2. 2024年4月期第3四半期のセグメント別業績動向

(1) 5G インフラ支援事業

固定回線網はサービス利用の減少やネットワーク原価の高止まりにより厳しい事業環境が続いている。一方でモバイル回線網は、独自型 MVNO サービス事業者が大手モバイル通信キャリアの格安プランなどによる影響を受けてはいるものの、IoT やインバウンド向けなどモバイル市場全体の成長は継続していることから、MVNE（仮想移動体通信事業者（MVNO）の支援事業者）としての MVNO 向け支援事業が順調に拡大した。さらに、スタートアップ企業や中小企業といった新たな小口客にリーチするため、法人向け ICT パッケージ「freebit Business」のサービスを開始しており、第1弾「どこでも IP」提供開始に続いて第2弾「freebit mobile Biz」の提供を発表した。この結果、売上高は 7,424 百万円（前年同期比 4.4% 増）、セグメント利益は 1,341 百万円（同 15.6% 増）となった。

(2) 5G 生活様式支援事業

主力の 5G Homestyle（集合住宅向けインターネットサービス）では、建物の資産価値や入居率の向上を目的に高速ブロードバンド環境が標準化している事業環境を踏まえ、より高速なインターネット接続サービスや多目的施設へのインターネット接続サービス、戸建賃貸住宅向けサービスなどの提供を拡大した。このため、サービス提供戸数が 2023 年 12 月末累計で 10.6 万戸増（ギガプライズ前期末比）の 115.7 万戸と順調に推移した。5G Lifestyle（個人向けのモバイル通信サービスやインターネット関連サービス）では、固定回線網サービスの利用は減少したものの、新端末発売のためのマーケティングコストや顧客獲得コストのコントロールにより「トーンモバイル」の利益改善が進んだ。この結果、売上高は 19,903 百万円（前年同期比 18.7% 増）、セグメント利益は 2,578 百万円（同 68.0% 増）となった。なお、GPG 決算期変更の影響を除いた実質ベースにおいても、事業自体が順調に推移したため、売上高・セグメント利益ともに増加となった。

(3) 企業・クリエイター 5G DX 支援事業

新型コロナウイルス感染症の 5 類移行に伴う行動制限の緩和により広告需要が回復したが、同分野ではクッキー規制などにより時代の転換点にあるとも言われている。そのなかで、フルスピードが展開するインターネットマーケティングやアドテクノロジーサービスにおいてこれまで培ってきたインターネットマーケティングのノウハウを生かすとともに、注力ジャンルの強化や海外顧客の獲得を行いアフィリエイト事業が好調に推移した。また、フルスピードの完全子会社化に伴うリソースの最適化といった PMI 効果により販管費の抑制が進んだ。一方、新規事業である「Stand Alone」のサービス展開が進み、2024 年 2 月 20 日には騎手・坂井瑠星氏のアプリ「RS Jockey Room」を、同年 3 月 28 日には俳優・窪塚愛流氏のアプリ「AiRu」をそれぞれリリースし、そのほかにも俳優・山本舞香氏のアプリリリースに向け準備を進めるなど、中期的な取り組みとして同社が目指す 5G/web3 時代のファンコミュニティの形成が順調に進捗した。この結果、売上高は 14,654 百万円（前年同期比 18.0% 増）、セグメント利益は 767 百万円（同 59.3% 増）となった。

業績動向

(4) One Vision の進捗

2023年12月8日に発表した、web3によるステークホルダーコミュニティ実証実験「One Vision」も順調に進展している。まず、「トーンモバイル」の顧客向けに「TONE Coin」のリアル価値交換（トーンモバイルの利用料金への充当）を、2024年2月1日に開始した。この価値交換のアナウンス後に「TONE Chain」ノード数の増加に弾みがつき、3月時点でノード数世界第3位の規模となり、同社ブロックチェーンの信頼度が着実に高まった。また、株主向けには2024年3月8日に「One Vision」の株主還元施策に関するロードマップを発表した。4月末時点の株主名簿に記載された株主に対し、6月を目途に「フリービット株主DAOアプリ」及び「フリービット株主DAO」参加権となる「株主NFT」の提供を開始する予定である。これにより、株主は「TONE Chain」のシーリングに参加可能となり、報酬として「TONE Coin」を獲得することができるようになる（株主の価値交換については検討中）。また、株主掲示板への投稿などを通して、株主同士やIR担当者との交流も可能となる見込みである。

次期中期経営計画もスムーズに導入される見通し

3. 今後の業績見通し

2024年4月期の業績見通しについて、同社は2023年12月8日に上方修正した。売上高53,000百万円（前期比13.3%増）、営業利益5,500百万円（同37.2%増）、経常利益5,200百万円（同40.3%増）、親会社株主に帰属する当期純利益3,000百万円（同67.4%増）とし、中期経営計画『SiLK VISION 2024』策定当初の業績目標である売上高500億円、営業利益50億円を超過達成する予想となった。第3四半期以降の進捗も非常に順調で、前期同様に期末に向けて新たな戦略投資を実行しても、表記目標をさらに上回る可能性があると考えられている。また、2回目の「Transformation Term」によりポートフォリオの最適化が進んだことを背景に、次期中期経営計画『SiLK VISION 2027』もスムーズに導入される見通しである。『SiLK VISION 2027』では、既存事業の成長に加え、「One Vision」やインキュベーション領域の事業の社会実装を進めるとともに、M&A戦略の解禁や業務提携により戦略ポートフォリオの拡大を考えているようだ。

2024年4月期業績見通し

(単位：百万円)

	23/4期		24/4期予想		
	実績	売上比	予想	売上比	増減率
売上高	46,771	100.0%	53,000	100.0%	13.3%
売上総利益	13,327	28.5%	-	-	-
販管費	9,319	19.9%	-	-	-
営業利益	4,007	8.6%	5,500	10.4%	37.2%
経常利益	3,707	7.9%	5,200	9.8%	40.3%
親会社株主に帰属する 当期純利益	1,792	3.8%	3,000	5.7%	67.4%

出所：決算短信よりフィスコ作成

重要事項（ディスクレマー）

株式会社フィスコ（以下「フィスコ」という）は株価情報および指数情報の利用について東京証券取引所・大阪取引所・日本経済新聞社の承諾のもと提供しています。

本レポートは、あくまで情報提供を目的としたものであり、投資その他の行為および行動を勧誘するものではありません。

本レポートはフィスコが信頼できると判断した情報をもとにフィスコが作成・表示したのですが、フィスコは本レポートの内容および当該情報の正確性、完全性、的確性、信頼性等について、いかなる保証をするものではありません。

本レポートに掲載されている発行体の有価証券、通貨、商品、有価証券その他の金融商品は、企業の活動内容、経済政策や世界情勢などの影響により、その価値を増大または減少することもあり、価値を失う場合があります。本レポートは将来のいかなる結果をお約束するものでもありません。お客様が本レポートおよび本レポートに記載の情報をいかなる目的で使用する場合においても、お客様の判断と責任において使用するものであり、使用の結果として、お客様になんらかの損害が発生した場合でも、フィスコは、理由のいかんを問わず、いかなる責任も負いません。

本レポートは、対象となる企業の依頼に基づき、企業への電話取材等を通じて当該企業より情報提供を受けて作成されていますが、本レポートに含まれる仮説や結論その他全ての内容はフィスコの分析によるものです。本レポートに記載された内容は、本レポート作成時点におけるものであり、予告なく変更される場合があります。フィスコは本レポートを更新する義務を負いません。

本文およびデータ等の著作権を含む知的所有権はフィスコに帰属し、フィスコに無断で本レポートおよびその複製物を修正・加工、複製、送信、配布等することは堅く禁じられています。

フィスコおよび関連会社ならびにそれらの取締役、役員、従業員は、本レポートに掲載されている金融商品または発行体の証券について、売買等の取引、保有を行っているまたは行う場合があります。

以上の点をご了承の上、ご利用ください。

■お問い合わせ■

〒107-0062 東京都港区南青山 5-13-3

株式会社フィスコ

電話：03-5774-2443（IR コンサルティング事業本部）

メールアドレス：support@fisco.co.jp